

---

## 研究活動報告

---

### 南アフリカ「人口推計，都市開発における財政・データ利用に関するワークショップ」

2017年10月31日（火），南アフリカ・ケープタウンのタウンハウスホテルで，南アフリカ都市ネットワーク（SACN）と国際協力機構（JICA）が主催する，「人口推計，都市開発における財政・データ利用に関するワークショップ」に，国際人口学会大会に参加中の菅桂太（人口構造研究部室長）と筆者が参加した。菅室長は日本における地域人口推計について，筆者は日本における都市の定義と都市人口の推移について報告した。南アフリカでは，人口増加と都市化が進行し，流動する人口をどのように把握し，経済成長につなげるかが課題となっている。このワークショップには，WorldPop/Flowminder プロジェクトを主宰する英国サウサンプトン大学のテイタム教授も参加し，筆者らの日本型統計利用に付け加え，携帯電話データを利用したビックデータの活用についての紹介もあり，新興国における人口移動データのあり方について，議論がはずんだ。（林 玲子 記）

### シンガポールの人口高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関する資料収集

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）による研究事業「東アジア，ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として，11月7日から11月13日にかけてシンガポールに滞在し，シンガポール大学や国立図書館等を訪問し最新の統計資料収集を行った。また，滞在中にシンガポール大学公共政策研究所で「シンガポールにおける出生力変動の生命表分析—1980~2015年の初婚力と既婚出生力の民族格差に着目して」に関して研究報告を行ったほか，シンガポール大学アジア研究所の主催で行われた「若年者に対する労働市場の不確実性」セミナーに出席し，専門家との意見交換を行った。いずれもシンガポール人口の少子高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関し社会・政治・経済・文化的変動について多面的な意見交換を行うとともに，統計調査データ・論文・報告書を含む貴重な資料を収集できた点で成果があった。（菅 桂太 記）

### 国際学術会議「AGENTA Final Conference：高齢化の経済的帰結と世代間の公平性」および NT(T)A ワークショップ

オーストリア・ウィーンにて，国際学術会議「AGENTA Final Conference：高齢化の経済的帰結と世代間の公平性」（平成29年11月20-21日）および NT(T)A ワークショップ（平成29年11月22日）が開催された。同会議は，欧州委員会の研究費により2014年から継続してきた AGENTA プロジェクト（「高齢化していくヨーロッパ：国民移転勘定の応用による公的支出動向の説明と予測」2014年1月~2017年12月）の最終成果報告を兼ねたものであり，Wittgenstein Centre for Demography and Global Human Capital の主催により行われた。同会議では，高齢化に伴う社会経済的諸問題という先進諸国に共通する課題についての指導的研究者が一堂に会し，欧州を中心とする諸外国における先

端的研究成果の報告が行われた。本研究所からは、社会保障基礎理論研究部の佐藤格室長および企画部の福田が参加し、東京大学や日本大学の研究者と行った共同研究について以下の報告を行った。

Setsuya Fukuda, Itaru Sato, Kazuyuki Terada, Takahiro Toriyabe, Hidehiko Ichimura, Naohiro Ogawa and Rikiya Matsukura. "Household production and consumption over the life cycle in Japan: NTA and NTTA summaries by gender from 1999 to 2014"

アジアからの参加は、私たちのグループのみであった。世界で最も高齢化が進んでいる日本の現状については関心も高く、この機会に情報発信を行い、他の研究者とネットワークを構築する機会を得たことは幸運であった。

また、2日間の会議の後に開講されたワークショップでは、AGENTA プロジェクトで作成・公表しているヨーロッパ25カ国のNTAならびにNTTAデータ (<http://dataexplorer.wittgensteincentre.org/shiny/nta/>) についての説明およびNTA/NTTAデータを用いた新たな高齢化指標の構築についての議論が行われた。AGENTA プロジェクトでは主要な目的のひとつとして、ヨーロッパで比較可能なNTAとNTTAのデータを構築することが挙げられている。ヨーロッパ各国には、それぞれ自国のNTAやNTTAを構築するチームがあるが、AGENTAではこれらのチームとは独立に、欧州内の「完全に比較可能な」データを用いて、国別の調整などは一切行わない「同一手法による推計」によってNTAおよびNTTAの値を計算している。このような比較可能性を重視したHarmonizedデータと各国チームが独自の工夫・調整の下に推計したデータをどのように使い分けていくのかは今後の課題となるように感じられた。一方で、AGENTAが行ったようなデータの公開と共有は、世界的な潮流となりつつある。今後は、公開されたNTAデータを用いた応用的・分析的研究が進んでいくものと思われる。

今回の会議およびワークショップでの報告資料は下記のURLにて公開されている。

<https://www.oeaw.ac.at/vid/events/calendar/conferences/agenta-final-conference/>

(福田節也 記)

## 台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア、ASEAN諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として、筆者が11月21日～25日にかけて台湾を訪問、専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は、王宏仁教授（国立中山大学）、蔡瑞明教授（東海大学）、李美玲教授（中央研究院）、謝穎慧教授（慈濟大学）等である。主に日本時代以来の台湾の国内・国際移動パターンの変遷について議論し、独力では探し出せなかった資料を入手できた。（鈴木 透 記）

## 第32回日本国際保健医療学会

2017年11月24日（土）、25日（日）に、東京大学本郷キャンパス内で、第32回日本国際保健医療学会大会が、日本熱帯医学会、日本渡航医学会の大会と合同で「グローバルヘルス合同大会2017」として開催された。今年のテーマは「思いは一つ：健康格差の改善」であるが、例年通り、戦時下の医療から保健人材育成まで、多様なテーマのシンポジウム、口頭発表、ポスター発表、自由集會が行われた。